

学習内容報告書 フォーマット

学校名	石川県鳳珠郡能登町立松波中学校
授業者	樋本 光

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

海藻から探る能登町の海（海を知る・守る）

1-2. 学年

2年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

能登町では、2015年、町の創生総合戦略において、「小中学校で郷土愛を深め、ふるさとに誇りを持つ実践教育として海洋教育の充実を図る」ことが明記され、能登町教育委員会の主導で海洋教育の推進が図られている。2016年度から能登町の全小中学校での海洋教育が開始された。能登町各校は地域の自然や施設、人材を活用した体験活動の充実と、その前後の言語活動を大切にしながら各学校の独自性を生かした実践を行ってきた。

本校では「海藻」をテーマに各学年ごとに重点項目を設定し、目指すねらい・育成すべき生徒の姿を定め、総合的な学習の時間を柱とした単元を計画し実践した。1年間通して計画的に展開する教育課程の開発と実践を通して、海に進んで関わろうとする生徒の育成をめざすものである。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

世界規模の海洋汚染問題が深刻化している中、海洋環境問題について正確な知識を持つことが重要視されている。生徒は海が身近にある一方、海洋環境問題については「他人事」という意識がある。そこで海藻をテーマとした体験活動・保全活動を通して海の環境保全に主体的にかかわろうとする生徒の育成を目指す。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

地元の海で良さや課題を発見し、関心を持つことで、環境と自らの生活を結びつけて考えることができる。日常生活の中に潜む問題が、地域や地球規模の問題と深く関係していることを知り、互いのつながりを考えることができる。また自分たちが学んだことを地域に配信することで、環境問題に主体的に取り組む態度を養う。

1-7. 単元の展開（全13時間）

※目指す資質・能力

A：知識及び技能

B：思考力，判断力，表現力等 ①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現

C：学びに向かう力，人間性等 ①主体性 ②自己理解 ③協働 ④他者理解 ⑤社会参画

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	『石川の海の現状（良さと課題）講義』 石川県には200種類以上の藻類が分布し、約30種類は能登地域で食用にされている。石川県の藻場には多種類の海藻が混在し、複雑で多様な環境が作り出されているため、多様な生き物が生息するのに適しており、藻場は水質浄化にも重要な役割があることを知る。しかしその藻場が減っていることを学ぶ。	○教師の指導：授業の趣旨、目的の説明と進行 ○主な評価 ・海藻の豊かさ、食文化について理解する。(A) ・課題の解決に向けて、適切に情報を収集する (B②) ○外部連携：石川県水産総合センター 池森 貴彦氏 ○使用教材 ワークシート、pwt、箱眼鏡、軍手、バケツ、図鑑、パレット、画用紙、ラミネートフィルム
2	『海藻採取（赤崎海岸）』 地元の海岸に行き、海藻採取をする。取り方やどんな場所に生えていたか、海の中ではどのような様子であったかなどポイントを押さえながら採取する。	
3 4	『海藻の同定・標本づくり』 採取した海藻を図鑑を見ながら種類を特定する。また一人一つ選び標本を作成する。	
5	『海洋ごみ問題の講義』 海ごみ問題とは何が問題なのか、なぜ起きているのかを知る。	○教師の指導：授業の趣旨、目的の説明と進行 ○主な評価 ・海洋ごみ問題について理解する。(A) ・課題の解決に向けて、適切に情報を収集する (B②) ○外部連携：能登里海教育研究所 木下 靖子氏 ○使用教材：ワークシート、pwt、海ごみサンプル
6	『身近な海のよさを守っていくには何ができるかを考える。』 今までの学習を受けて、ブレインストーミング法を用いて、生徒から様々な考えを出してもらい、自分たちが取り組む課題の計画を立てる。	○教師の指導：課題の提示、授業の進行、全体のまとめ ○主な評価 ・仮説を立てて検証方法を考える。(B①) ・視点を決めて多様な情報を分析する。(B③) ○外部連携：能登里海教育研究所 木下 靖子氏 ○使用教材：ワークシート、pwt、付箋（赤、青、黄）
7 8	『赤崎海岸清掃』 自分たちで地元の赤崎海岸の清掃をする。また漂着物調査もかねて行う。その際に注意点など海上保安署の方に解説していただく。	○教師の指導：課題の提示、授業の進行、全体のまとめ ○主な評価 ・相手や目的に応じて、意図を明確にして表現する。(B④) ○外部連携：能登海上保安署 ○使用教材：軍手、ごみ袋、トング

<p>9 ～ 1 3</p>	<p>『学習のまとめ（ポスター・動画の作成）』 取り組みをまとめポスターや動画を作成。校内 掲示や関係・連携機関に依頼し掲示、放送しても らう。ポスター・動画の地元の海の環境保全を促 進する内容にし、地域で地元の海を守っていくよ う呼びかける。</p>	<p>○教師の指導：課題の提示、授業の進行、全体のまとめ ○主な評価 ・相手や目的に応じて、意図を明確にして表現する。(B④) ・異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する。(C③、④) ○外部連携： ○使用教材：画用紙、タブレット、動画編集ソフト</p>
----------------------------	--	---

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・海洋ごみの問題について理解を深める。
- ・海洋ごみ問題解決のため、何ができるか考える

2-3. 本時の展開

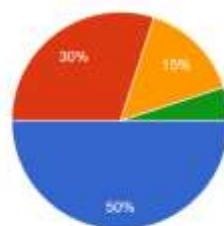
主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1. 前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川県は全国屈指の藻場が存在。 ・藻場には様々な役割があり、生態系を支えている。 ・全国、能登町で藻場が減少。 <p>2. 海洋ごみ問題について説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋ごみが世界的問題になっているということ（何が問題なのか） ・石川県や能登町では海洋ゴミ問題はどうなっているのか（海洋ごみの現状） <p>3. 海洋ごみの流出を防ぐために何ができるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸清掃イベントの開催 ・環境保護啓発運動の実施 ・公共海水浴場にポスターを設置 ・海の魅力をPRする。 <p>4. まとめ、振り返り</p>	<p>・ PowerPoint を用いて、端的に説明する。</p> <p>・ ゲストティーチャーに説明してもらう。 海洋ごみとは何か、近年問題になっているマイクロプラスチックなど実験や、実物を見せてもらいながら説明してもらう。</p> <p>評価の視点①：海ごみ問題について理解する。（A）</p> <p>・ 自分達や、地域でできることを立案し、ホワイトボードでまとめ、発表する。 できる、できないではなくアイデアを出させる。</p> <p>評価の視点②：（ワークシートの記述から） 視点を決めて多様な情報を分析する。（B③）</p>

海洋ごみの問題について考えよう

3. 今回の活動の自己評価

○1年間の取り組みを終え、生徒アンケートを実施した。海洋教育の取組から、生徒自らが課題を設定し、講義や実習により情報を集め、整理・分析をし、地域に表現、発信するという、探究のプロセスを主体的に取り組むことができた。またアンケート調査の結果から、海への愛着・関心が深まったこと、ねらいに迫った

⑤海をきれいにする活動にかかわりたい
20件の回答



● 思う
● どちらかといえば思う
● どちらでもない
● どちらかといえば思わない
● 思わない

結果（海の環境保全に主体的に関わろうする姿勢）があらわれたことも大きな成果と考えている。特に学習指導要領の改訂にもあるように「まとめ・表現」の充実が本校でも課題であったが、GIGA スクール構想に伴い、一人一台端末が配備されたことにより、動画作成でのまとめ・表現が可能となったのも大きな成果といえる。

○単元プランを作成することで組織的に実践できた。

4. 今後の課題

本校の今後の課題として3つ上げられる。

- ①地域人材・施設など外部との連携、活用の充実。今後どのように連携していくのかを考える必要がある。
- ②組織的、系統的な実践。海洋教育は特定の教員が行うのではなく、取り組む体験活動や言語活動を1つの単元としてきちんと整理し、どの教員でも実施可能な単元計画、授業にする
- ③評価方法の充実。身に着けたい資質・能力が生徒に身についたかどのように見とるか。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・外部指導員との連携（能登里海教育研究所がコーディネーターとして大きな役割を果たしている）
- ・感染症対策（移動・活動の際の手指の消毒、マスク着用）